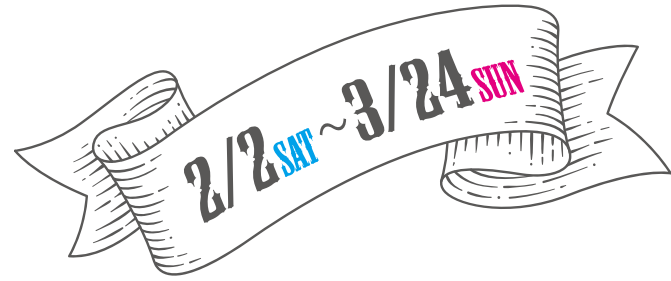


木版画と郷土の画家 2つの企画展始まる

2月2日(土)から3月24日(日)まで2つの企画展を開催します。



タリン・パディ
《泉を守れ》2009年
福岡アジア美術館蔵



レオニーニョ・オルデガ・ドロリコン
《農園のなかで》2014年
福岡アジア美術館蔵

木版画のメッセージを読み解く
福岡アジア美術館、美術館連絡協議会と共同で「闇に刻む光 アジアの木版画運動1930s・2010s」を開催。アジア各地の政治や社会運動の中で作られてきた木版画作品と、版画を掲載した印刷物などを約400点紹介します。
また、現代社会の問題を扱い地域のひとと共に制作活動を行うアーティスト、オギン・コレクティヴ（韓国）とイルワン・アーメット&テイタ・サリナ（インドネシア）の作品も紹介します。

- **トーク「転換期の文化と運動」**
戦後初期の版画
日時 3月16日(土) 14時～16時
対象 一般、先着40人
講師 II ワシントン大教授・ジャスティン・ジェステイさん
申し込み 同館へ
- **学芸員によるギャラリートツアー**
日時 2月9日(土)・3月10日(日)、13時～14時
申し込み 当日同館へ直接
- **オギン・コレクティヴ アーティスト・トーク**
日時 2月3日(日) 14時～15時30分
申し込み 当日同館へ直接
- **トーク「転換期の文化と運動」**
抵抗と解放の木版画運動
日時 2月2日(土) 14時～16時
対象 一般、先着40人
講師 II 福岡アジア美術館運営部長・黒田雷児さん
申し込み アーツ前橋へ
- **オギン・コレクティヴ アーティスト・トーク**
日時 2月3日(日) 14時～15時30分
申し込み 当日同館へ直接
- **トーク「転換期の文化と運動」**
戦後初期の版画
日時 3月16日(土) 14時～16時
対象 一般、先着40人
講師 II ワシントン大教授・ジャスティン・ジェステイさん
申し込み 同館へ
- **学芸員によるギャラリートツアー**
日時 2月9日(土)・3月10日(日)、13時～14時
申し込み 当日同館へ直接

郷土の画家の心の動きを追う

郷土の画家・近藤嘉男(1915-1979年)の作品を収蔵品から紹介する「近藤嘉男と憧れのヨーロッパ航路:アーツ前橋所蔵作品から」を開催。欧州外遊での日記を軸に画業を振り返ります。写真などが並ぶ多彩な展示空間を作り、人物像を多面的に紹介します。

- **学芸員によるギャラリートツアー**
日時 2月23日(土) 14時～14時30分



近藤嘉男
《オンフルール》1970年

- **おしゃべりアートデイズ**
期日 3月18日(月)～24日(日)
申し込み 参加希望日の前日までに同館へ
- **こどもアート探検**
日時 3月23日(土) 15時
対象 小学生以下(未就学児は保護者同伴)
申し込み 当日同館へ直接

地域一体で深める芸術・文化 アーツ前橋 全国から注目集める



ya-gins



Maebashi Works (撮影・木暮伸也)

アートと地域の縁を支える
アーツ前橋は、県内で2例目となる地域創造大賞（総務大臣賞）を受賞しました。この賞は地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに貢献した公共文化施設を顕彰するもの。開館して5年以上の施設が表彰対象で、アーツ前橋は昨年5周年を迎えた直後の受賞となりました。
これまでアーツ前橋は、地域にゆかりのある作家の作品を調査し、収蔵や展覧会の企画を行ってきました。また、アーティストが市内に滞在して作品制作を行う事業や、市民と協働したまちなか文

化祭、福祉・医療・教育団体とアーティストが継続的に関わる「表現の森」などを通じて、地域と意欲的につながってきました。
昨年10月には中心商店街からの提案をもとに、滞在制作で招いたアーティストたちを再び招聘。まちなかの空き店舗や街頭にアート作品を展示する企画展「つまずく石の縁 地域に生まれるアートの現場」を開催しました。さまざまな国籍のアーティストが制作した作品を見られる貴重な機会に、多くの来場者が訪れました。
そして、Maebashi Works や ya-gins など、まちなかのアーティスト運営のスペースなどでは、前橋を中心に活動するアーティストたちに



中山晴奈 ×「アーツでであう、アートでむすぶ in まえばし 2015」Bコース受講生
＜上毛電鉄ごちそうアートトレイン＞
(撮影・木暮伸也)



風景と食設計室 ホー
＜風の食堂 in 粕川＞
見えない神様 ― 粕川の祈りとたべもの
(撮影・木暮伸也)



「つまずく石の縁」で空き店舗シャッターの展示作品を説明するアーティスト
(撮影・木暮伸也)

より、多彩で創造的な取り組みが行われています。
いろいろな人が出会い対話し、新たなアイデアが生まれる場を目指して、アーツ前橋はこれからも美術館の役割を更新し続けます。
アーツ前橋
027・230・1144